

# 山崎聡一郎さん「自由」ってなんだろう？

茨城・鹿嶋市立鹿島小でオーサー・ビジット



1 表情豊かに話す山崎聡一郎さん 2 子どもたちからは次々と質問が補足授業はコロナ対策でビニール越し 3 図書委員たちと記念撮影 4 図書委員たちが応募した色紙

茨城県鹿嶋市の市立鹿島小学校（山口久弥校長、639人）で11月18日、ベルマークの教育応援隊事業のひとつ、オーサー・ビジットが開かれました。本の著者が学校を訪ねて特別授業をします。講師はベストセラー「子ども六法」の著者、山崎聡一郎さん。マルチな活躍をしている27歳の気鋭の教育研究者です。

5、6年生229人を対象に、まず自己紹介。「聡一郎」を「恥一郎」と誤記されたことがあるそうで、「誰が恥ずかしいじゃ！」と山崎さん。くだけた話術に子どもたちは大爆笑しました。

山崎さんは「自由」について問います。自由だったら何がしたいか。「ずっと寝たい」「大統領になりたい」「お金持ちに」と子どもたち。「それは誰かに禁止されている？法律で？」。そんなことはありませんよね。「では、法律

に違反しなければ何をやってもいいと思う？」

法律は人々の信頼関係である「秩序」を守るためである、と山崎さん。とはいえ、「気分次第で勝手に刑罰を与えること」は防がなければなりません。そのためにあるのが罪刑法定主義。「言い換えると、刑法に書いていないことは犯罪にはなりません」

一方で山崎さんは「自由には責任が伴う」とも。自分の気分で友人にケガを負わせた場合、刑法の責任年齢は14歳なので小学生に刑罰はありません。「裏を返せば14歳になれば犯罪になる」のです。選んだ行動の結果には責任を負う。これが「故意責任の本質」です。

子どもたちは今後、様々な場面で選択を迫られることがあるでしょう。「でも14歳まで時間があります。選択の結果が失敗でも反省を次に活かせばいい。自分の人生

を自分で決めてください」と山崎さんは訴えました。

全体授業の後、応募活動を担った図書委員28人向けの補足授業がありました。そこで提示されたのは、今度は「『法律に違反しなければ何をやってもいい』というわけではない」という話でした。

「法律は『ルール』。もうひとつ守らなければいけないのは『マナー』、つまり道徳」と山崎さん。さらに「法律は欠陥だらけ」とも。「法律は世の中で問題が起きたとき、解決のために『後追い』でつくるから」です。

「学校で習う事は〇か×だけれど、世の中のいろんなテーマはそうではない」。自分の主張を伝えると同時に相手の主張を受け入れる力を身につけ、対立する意見とバランスを取ることが大事だとして「明日から、みんなですっかり話し合いをしてください」と結びました。

# 尾木直樹さん「輝きを積み重ねて未来へ」

東京・田園調布学園中・高等部でオーサー・ビジット



1 約1時間半、エネルギッシュに語り続けた尾木直樹さん 2 真剣に耳を傾ける参加者たち 3 図書委員、司書教諭の二井依里奈先生と記念撮影 4 図書委員たちが応募した色紙

「尾木ママ」こと教育評論家の尾木直樹さんが11月12日、東京都世田谷区の田園調布学園中・高等部（清水豊校長、生徒1223人）を訪れました。本の著者が特別な授業をする「オーサー・ビジット」です。

コロナ対策で密を避けるため、主会場の講堂は前後左右を空けた市松模様の配席となり、他に校内3カ所へもライブ配信され、保護者も含めて600人が分散して聴講しました。尾木さんが話す演台にも飛沫拡散防止の透明なパネルが。「ここから離れる時はマスクを着けます。フェイスシールドは髪が乱れるから嫌な

の」と尾木さん。

最初は現在のコロナ禍についてです。「教育にとっても危機的。でも絶望しないで」。尾木さんは過去の経験や歴史から学ぶことの大切さを話しました。さらに学校行事についても、バーチャル修学旅行などの例を挙げて「皆さんなら先生と協力して新しい形を生み出せる。ぜひ挑戦して」と語りました。

尾木さんは、実は「先生になりたいとは全く思っていなかった」そうです。また「尾木ママ」と呼ばれるようになったのは、TV番組で明石家さんまさんにたまたまそう呼ばれたことがきっかけでし

た。「人生は偶然の重なりで、どう進むかは分からない。でも自分の本質なところは変わっていません」と尾木さんは言います。

話は日本の教育の現状から、人工知能(AI)が社会をどう変えるかまで及びました。これからの時代の学力は、知能指数(IQ)ではなく、AIを使いこなせる人間性指数(HQ)を重視するようになる、と尾木さんは強調します。

授業の最後には、生徒からの質問も受け付けました。「自分が今やりたいことを、どう将来に生かせばいいか」という問いに、尾木さんは自分の座右の銘だと

して「今を輝く」という言葉を紹介。そして「出来ることを精一杯続けられれば、輝きが積み重なり、未来へつながるように思います」と話を締めくくりました

オーサー・ビジットに応募したのは生徒の図書委員会でした。委員長の高等部2年、清水優里恵さんは「ベルマークを素敵な授業に使えて良かったです」と話しました。二井依里奈・司書教諭は「コロナ禍での中高生の生き方に即した授業。本当に感謝しています」、清水校長は「この学びを生かし、生徒たちは恐れずに一歩を踏み出してほしい」と話してくれました。